

九つのG—彼らが目指
す機兵道—

F e r 2 7

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

世間一般では乙女の嗜みとされている、MSを用いた武芸「機兵道」に、世にも珍しい男子MS乗りたちがいた。

機兵道強豪校である黒森峰学園に身を置く彼らだが、周囲から向けられる目は厳しかった。

そんな中、全国大会10連覇がかかったその年に、彼らに待ち構えていた試練とは？
そして彼らの機兵道は認められる時が来るのか？

挫折を味わい、どん底から這い上がり、栄光を目指す少年たちの物語が始まる――。

目次

作品設定

1

第1話 9人のパイロット

8

作品設定

【機兵道】

MSを用いて互いに競い合う、歴史ある武芸の一つ。”機兵”とは機動歩兵、または機動兵器の略称。

今作において戦車道に代わる乙女の嗜みとされている。

この世界では技術の進歩が凄まじく、TVアニメ、ゲーム、書籍、そして模型の存在でしかない「ガンダムシリーズ」に登場する主役兵器たるMSやMAを限りなく原作に近い性能で再現できるほど開発することができる（もちろんあくまで”武芸として用いる”ことが前提であるためかなり安全に配慮した作りになっている。阿頼耶識なんてもつてのほかである）。

今作ではWシリーズ、SEEDシリーズ、OOシリーズ、鉄血のオルフェンズシリーズといったアナザーガンダム作品がメインに取り扱われている。

近年男子の参加が見られるようになってきているものの、世間一般ではまだ女子が主流という認識であり、中には男子の参入を認めない過激思想を抱く者たちが声を大にしているため、まだまだ男子の肩身は狭い。

【登場人物紹介】

氷狩ひかり
要かなめ

2年生。9月9日生まれのA型。身長177cm 体重63kg。福岡県出身。

搭乗機はストライクガンダム

メンバー唯一の上級生で、リーダー役。

上級生の先輩として、何よりも皆の頼れる兄貴分であり続けるように振る舞うことが大事だと考えており、「ハートは熱く、頭は冷静クールに」をモットーとしている。

幼少時に西住姉妹と親交を深めており、以来の仲良し。機兵道においてもお互いに本気にさせることができる数少ないMS乗りと言われている。

広津ひろつ
海流かいりゅう

1年生。5月22日生まれのB型。身長173cm 体重59kg。熊本県出身。

搭乗機はダブルオーガンダム

メンバーのサブリーダー。

偏屈で素直になれない、典型的なツンデレ。

近接格闘戦を得意としており、その反面に射撃の腕は壊滅的。

逸見エリカとは幼馴染みで昔から言い争いが絶えない。その様子は最早痴話喧嘩。特技は料理。特にハンバーグが得意料理。

阿平 あひら
 凌成 しのなり

1年生。7月14日生まれのA型。身長172cm体重58kg。秋田県出身。

搭乗機はレーゲンデュエルガンダム

愛称は「シノ」

温厚な人物で、何かと暴走気味なメンバーの抑え役。

一方で正義感が強く、卑怯、卑劣、非道な悪事を憎み、絶対に許さない。また、人として間違ったことは絶対にしないと決心している。また、人と何かと似通っている赤星小梅とは仲が良い。

荒浪 あらなみ
 礼二 れいじ

1年生。12月2日生まれのA型。身長174cm体重60kg。神奈川県出身。

搭乗機はドレッドノートガンダム

冷めた性格でひねられている。

メンバーの切り込み隊長。『ある能力』の適正がないことにコンプレックスを抱いて

いる。

実家は病院で本人も少々ながら医療の知識を持っている。専門は外科。姉弟には4つ上の姉がいる。

未来戦隊タイムレンジャーのファンで特にタイムファイヤー推し。MSに搭乗している際にもタイムファイヤーと同じ仕草（銃身で左手の甲を何度か軽く叩く）を真似するほど。

戸渡 とわたり 公次郎 こうじろう

1年生。1月18日生まれのO型。身長175cm体重61kg。奈良県出身。

搭乗機はテストメントガンダム

愛称は「公ちゃん」

関西弁で喋る熱血漢。関西人らしい（？）鋭いツツコミが持ち味。

奈良県民であることにはかなりのこだわりと誇りを持っており、大阪や京都と一緒にたにされることを嫌う。プロ野球もオリックス・バファローズのファンで、阪神タイガースは好きじゃない。

ちなみにカナツチである（本人曰く「内陸県育ちが崇つて」とのこと）

乙成 おつなり
岳 がく

1年生。4月28日生まれのAB型。身長173cm体重57kg。三重県出身。

搭乗機はガンダムアスタロト

斜に構えた喧嘩っ早く、血の気が多い人物。あまりにも武闘派思考に偏っており、キレると手が付けられない（公次郎曰く「面倒なことになる」）

好みの女の子のタイプはメガネ女子。高速戦隊ターボレンジャーの流れ暴魔キリカ
|| 月影小夜子のメガネを外した姿を美しいと評したことにキレるほど。

飛澤 ひざわ
通洋 みちひろ

1年生。3月7日生まれのB型。身長176cm体重60kg。山口県出身。

搭乗機はケルデイルガンダム

チームのムードメーカー。

普段から気さくでお気楽。年相応の男子らしくスケベな一面があり、度を過ぎたセクハラじみた言動をとることもしばしば。一方で岳に次いで血の気が多く、難しいことを考えるのが苦手で、話し合いよりも手っ取り早く力（物理）で解決するやり方を好んでいる。

射撃の腕前はピカ一。どちらかと言えば狙撃よりも早撃ち、乱れ撃ちのほう得意。

じんくうし
神宮司 崇人 たかひと

1年生。2月24日生まれのAB型。身長175cm体重60kg。愛媛県出身。

搭乗機はストライクノワール

愛称は「ジン」

無愛想だが誰よりも情に厚い人物。冷静さと慎重さを兼ね備えており、シノと共にストッパーに回ることも多い。

総合的な操縦技量が高く、トリッキーな戦い方を得意としている。

えかぜ
江風 鷹 たか

1年生。10月16日生まれのO型。身長174cm体重56kg。静岡県出身。

搭乗機はガンダムアストレイブルーフレーム

真面目だが感性が常人よりズレている。お人好しで考えるよりも先に体が動くタイプで慎重さに欠ける。方向音痴で地図もまともに読めない。

実はブルーフレームは尊敬する幼馴染みの兄貴分、通称「ヨシ」から譲り受けた機体。

筋金入りの特撮ヒーローの大ファンで憧れとしており、幼少期から現在に至るまでそ

の人格形成に大きな影響を与えている。

第1話 9人のパイロット

【機兵道】

それは、モビルスーツを用いて互いに競い合う、歴史ある武芸の一つ。”機兵”とは機動歩兵、または機動兵器の略称である。

世間一般では乙女の嗜みとされているが、近年は男子の参加が見られるようになってくる。だが、中には男子が機兵道をやることを認めない過激思想を抱く者たちが声を大にしているため、まだまだ男子の肩身は狭かった。

そんな厳しい現状の中でもめげずに機兵道をやる者たちはいた。

それはここ、機兵道の強豪校である黒森峰学園にその姿はあった。

黒森峰学園の演習場では数多くのMSが訓練に臨んでいた。

特に今年は高校機兵道全国大会10連覇がかかった年ということもあってかその気合の入れようは半端なものではなかった。

そんな中、MSに乗らずMSの格納庫の周りを何周も走り込みしている一人の男子生

徒の姿があつた。彼は今年入学したばかりの正しく新米の一年生であつた。

「はあ、はあ………！ やつと、終わった………」

「どうしたー？ もうばてたのかー？ 新人」

走り込みを終えて肩で息をしている光景を見た一人の男子生徒が彼のもとへ歩み寄る。

「新人つて、そつちも同じ一年生でしように………」

「俺は中等部からこの学園に通つてるの。高校から入つてきたお前と違つてな」

走り込みをしていた生徒の名は、江風えかぜ鷹たか。そんな彼をからかっているのが飛澤ひざわ通洋みちひろである。

「確かに、黒森峰生としては”新人”やけどな」

「でも学年は同じなのも事実だしな」

訛りのある喋り方をしているのは戸渡とわた公次郎こうじろう。ポケットに手をつ突つ込み行儀悪そうにしているのは乙成おつなり岳がくである。

「そつちはシミュレーターシミュレーターの訓練終わったところか？」

「まあな。次はミッチーと鷹の番やる？」

「ああ、うん………」

江風はどこか浮かない顔をしていた。

「どうした？そんな顔して」

「いや、いつになつたらちやんとMSに乗れるかなつて思つてな……もちろん、シミュレーターでいい成績叩き出さなきゃ始まらないことは分かつてはいるんだけど、その」

「あー……あのな鷹、お前は勘違いしとるで」

悩みを吐露した鷹の言葉が戸渡が遮る。

「え？」

「シミュレーターのスコアなんて関係ない。誰がいつ実機による訓練ができるかなんてその日によつて違う」

「そうなの？」

乙成から聞いた江風だが、よもやそういうシステムになつていとは思つてもみなかつた。

「そうだぜー。まあ確かに鷹は中々乗せてもらえないし今のところ日程もそういう風に組まれてないからなー。まあ今週は無理でも来週から本格的に乗れるんじゃないかね？」

「そうなつてくれるといいんだけど」

「なるよ。お前だつて腐つても”実機持ち”なんだからな」

乙成の言う”実機持ち”とは、一般では学園や連盟が所持し支給しているMSと違い、自らが所有権を有しているMSを持つているパイロットのことを機兵道業界の間で

は実機持ちと呼称していた。

それは指摘された江風だけでなく、ここにいる乙成、戸渡、飛澤、そして残りの男子パイロットたちも該当する。

『コラー……!! その4機、勝手な動きをするな!! 事前に打ち合わせした通りに動けと言ったでしょう!! チームの輪を乱すなんて言語道断!! ペナルティとしてあんたたちの撃墜スコアは無効とさせてもらおうわ!!』

すると突然、スピーカーを大音量で怒鳴る先輩の声がMSに搭乗していない者たちの耳をつんざく。

なんだ? と思い目を向けるとそこには4機のMS……ワンオフ機の象徴たる”ガンダム”が動きを止めて声のしたほうへ向いていた。

「あいつら、またやりやがった」

「懲りないねえ。まあ気持ちは分らんでもないけど」

「せやな。俺たちも人のこと言えた立場やないしな」

「あ、あはは……」

その様子には最早慣れっこだった男子4人であった。

『……………なんであんなにキレてるんだ？お前なんかやったか？』

『ええ……………俺は普通に援護してただけだけど……………』

『チツ、毎度毎度めんどくせえな』

『全くだよ、クソツタレが』

先輩に怒鳴られた4機のガンダムとそのパイロットたち。

ストライクノワールに乗る神宮司 崇人が、レーゲンデュエルに乗る阿平 凌成に尋

ねるが当の本人は普通に援護しただけだと弁明。

一方でドレッドノートガンダムに乗る荒浪 礼二とダブルオーガンダムに乗る広津

海流かいるはいつものことに悪態をついていた。

『まあまあ、そう怒らないでくださいよ。こいつらには俺から言っておきますので！』

……………それでいいよな？西住まほ隊長？』

エールストライクのパイロットで男子MS乗り唯一の上級生である氷狩 要が先輩

を宥めると、同級生でありながらこの黒森峰学園の機兵道チームを指揮する隊長の西住

まほに同意を求めた。

『ああ。それで構わない。先輩として指導してやってくれ』

『了解。じゃあ、先輩方。そういうわけですので……………よし、お前たちMSから降りろ。

俺たちは今日はここまでにして、みっちり反省会するからな！』

『了解です………』

『了解した』

『りよーかいです』

『りよーかい』

こうして男子パイロットたちの今日の訓練が終了した。女子のほうはこの後も訓練が続いたが、男子たちはMSから降りてミーティングルームに集まり、反省会………という名の談話をしていた。

「ああーもう！毎回毎回、うるせえつたらありやしねえんだよあのクソ女どもが!!」
「全くだ。実機にも乗れないくせしてギャーギャーと、喧しくてたまらん」

「まあまあ、落ち着きなよ二人とも。特に海流は、ちよつと口が悪いよ?」

机に拳を叩きつけて怒る広津に荒浪も同意する。特に広津はこの場にはいないとは言え先輩のことをクソ女^{アマ}呼ばわりするほどの荒れようだった。阿平はそんな広津を宥めるが、当の広津本人は怒りが治まらない。

「シノ！お前は何とも思わねえのか！あんな態度だけデカくて先輩面してくる連中に！」

「そりゃあ俺だつてはらわたが煮えくり返る思いだよ。だけど向ごうの挑発に乗ったら後が面倒だつてことくらい、海流も分かつてるだろ?」

「うっ、まあそりやあそっただけどよ……」

黒森峰学園の機兵道履修者は一部例外を除くにしても、やはりその大半が『男子のM S乗』を認めない者たちで占めていた。

更にもその一部には強力なバック、いわば親が金持ちだったり高い地位の役職に就いていたりする者がいて、そうした者たちの手厚い支援のおかげで黒森峰学園機兵道の活動や予算が支えられているという事実もあった。その影響は誰しもが知っているため、強く出られないのが現状であった。

「でも俺たちだって人のことは言えない。俺たちがこうしていられるのも氷狩さんや西住隊長と副隊長のお墨付きがあつてこそだしな」

「好き放題、てわけにもいかんにせよ、俺たちがここにいられるのも要のにーさんとあの美人姉妹のおかげやしな」

神宮司と戸渡の言う通り、彼らが黒森峰に入られる理由はメンバーで唯一の上級生である氷狩と西住流本家の娘である西住まほとその妹で副隊長を務める西住みほのお墨付きがあるからである。娘二人が認めるということは、二人の母であり西住流家元である西住しほの認可もあるということである。そうとなれば流石の連中も簡単に彼らを学園から追放させることもできないのである。

ちなみになぜそこで氷狩が出てくるかと言うと至極単純、氷狩が西住姉妹とは古くか

らの付き合いがあるからである。まほは数少ない理解者として全幅の信頼を寄せ、みほは血の繋がりは無いにせよ実の兄のように慕っているほどである。

「……………色々言われたい放題で辛いのは分かる。俺だつて同じ気持ちだ。だけどこんな現状が永遠に続くわけじゃない。いつかは俺たち男だつて堂々と機兵道ができる時がくる。今は我慢の時だ」

「それでも限度つてもんはある。溜まりに溜まった鬱憤がとんでもねータイミングで爆発するかもしれないですよ？」

「そこを上手く抑^{コントロール}制しろつてことだろ？氷狩パイセン」

「そういうこと。……………よし、それじゃあ今日はこの辺で解散とするか。各自ゆっくりして体を休めて、明日の訓練に臨んでくれ！解散！」

『『はこー』』』

氷狩の号令でその場はお開きとなり、9人の男子パイロットたちは帰路についた。